

未来を展望するゾーン

1F (子ども・プロセス展示室)



未来を担う子どもたちが、積極的に平和を愛する心を育むための子ども・プロセス展示室は、大きく三つに分かれています。「ぬちどう宝・せかいの子どもたち！」は、さまざまな国の18人の子どもたちに学校のような、お友だち、遊びのこころなどを聞きました。「いませかいで何が」は、やまない戦争・紛争、いじめなどの人権問題、むしばまれる地球環境など、世界的な、あるいは、身近な問題を取り上げ、その原因、どうしたら解決できるのかなどを考えてもらうコーナーです。「わらびな(庭)」は、展示物にふれながら、遊びを通して共通性を発見し、違いを認め合うきっかけづくりをします。



世界はひとつ！
18人の子どもたちが来館者を笑顔で迎えてくれます。

親子や友人同士で平和について語り合える場がここにあります。



「いませかいで何が」のコーナーのひとつ、「なくなる貧困」

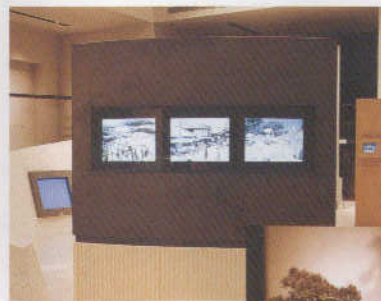
歴史を体験するゾーン

2F プロローグ

かつて琉球の先人は
平和をこよなく愛する民として
海を渡り
アジア諸国と交易を結んだ
海は
豊かな生命の源として
平和と友好の掛け橋として
いまなお
人々の心に息づいている

第1展示室 沖縄戦への道

明治政府は、琉球王府に対して、武力を背景にした『琉球処分』を断行した。それにともない沖縄県は、皇民化政策によって急速に日本化を進めた。
一方、近代化を急ぐ日本は、富国強兵策により、軍備を拡張し、近隣諸国への侵出を企てた。満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争へと拡大し、沖縄は、15年戦争の最後の決戦場となった。



明治・大正・昭和初期の沖縄の人たちの表情と町や村の光景が三面のモニター画面をとおして展開されます。

沖縄県民を根こそぎ動員して行われた飛行場建設や陣地構築のミニチュア模型。



第2展示室 住民の見た沖縄戦 鉄の暴風

沖縄戦において、日米両軍は、総力をあげて、死闘をくり広げた。米軍は物量作戦によって、空襲や艦砲射撃を無差別に加え、おびただしい数の砲弾を打ち込んだ。この「鉄の暴風」は、およそ3ヶ月に及び、沖縄の風景を一変させ、軍民20数万の死者を出す凄まじさであった。



沖縄戦の戦闘経緯を光とレーザー光線を使って立体地図の上で展開し、地域別の戦闘状況を小型モニターで紹介しています。



沖縄戦全体の戦闘経緯を大型モニターで映し出します。



立体地図の周りは破壊された民家や建物が再現されています。